

## 平成30年度ごみゼロやまがた推進県民会議産業部会議事録

### 《日時》

平成31年 3月 5日（火）13時30分～15時20分

### 《場所》

山形県庁 701会議室

### 《出席委員》（※会長以下委員名簿順）

鈴木喜代壽委員（会長）黒澤利宏委員（部会長）、阿部英弥委員、川口正男委員、澁谷忠昌委員（代理：一般社団法人山形県建設業協会 専務理事 佐原伸児氏）、庄司里沙委員、丹野善将委員（代理：山形県環境整備事業協同組合 細川江里子氏）、西方茂太委員、長谷川正芳委員、保科なお子委員（代理：山形県J A女性組織協議会運営委員 有海栄子氏）、松村英一委員（代理：山形県中小企業団体中央会連携支援部長 大江裕之氏）

### 《産業部会》

#### 1 開会

#### 2 あいさつ

黒澤利宏委員（部会長）よりあいさつ

#### 3 議事（座長：黒澤委員（部会長））

##### (1) 報告

- ① 第2次山形県循環型社会形成推進計画（ごみゼロやまがた推進プラン）  
平成30年度取組み状況について
- ② 第2次山形県循環型社会形成推進計画（ごみゼロやまがた推進プラン）  
平成31年度事業展開について

【事務局】（資料1～3により説明）

### <質疑・応答>

質問等なし

##### (2) 協議

- 平成31年度ごみゼロやまがた県民運動 産業部会展開方針について
- ・各委員の所属団体における3R推進に向けた活動状況（資料4）

### 【黒澤委員】

山形県産業廃棄物協会として、30年度も、やまがた環境展で展示ブースを出展した。

産業廃棄物処理工程や不法投棄原状回復作業などのパネルを展示、廃棄物に関する環境クイズ、そして毎年実施しているリサイクル自転車抽選会で17台を提供した。

また、各総合支庁ごとに設置されている不法投棄防止対策協議会に助成するとともに、原状回復作業に協会員が協力している。その他、毎年印刷配付していた会員名簿を平成30年度から取りやめた。

31年度の活動についてだが、産業廃棄物処理業は、廃棄物を単に処理するだけでなく、資源やエネルギーとして活用していくことにより循環型社会の形成を推進する産業であることから、このことを広く社会にアピールしていくために、協会の名称を4月から「一般社団法人山形県産業資源循環協会」と変更する。

また、やまがた環境展においても30年度同様にブース出展、パネル展示、環境クイズ、リサイクル自転車の抽選会を行い廃棄物に関する啓発をさらに高めていく。

#### 【鈴木委員（陪席：河合委員）】

山形県環境保全協議会としては30年度に主に3つの活動に取り組んだ。1つ目は、やまがた環境展への出展として、会員企業約200社に出店依頼及び当日の参加を呼びかけた。2つ目はコピー用紙の削減として、メールマガジンを利用し、会員企業への案内等はできるだけ電子メールを利用するようにした。3つ目は3010運動として、毎年6月5日の世界環境デーに合わせて開催している環境保全協議会の総会の後の企業交流会懇親会において、環境省のホームページからダウンロードした三角柱ポップや司会からの声掛けにより食品ロス削減に取り組んだ。昨年度から同様の取組みを行い、昨年度は食べ残しゼロだったが、今年は少し料理が余ったため、閉宴後、余った料理を1つのテーブルに集め、若い人などに声を掛け、通称ゼロエミッション隊と称し食べ残し防止に努めた。その他、物品購入に当たっては、グリーン購入に積極的に取り組んだ。

31年度も、30年度と同様の取組みを継続していくとともに、会員企業の興味が高いマイクロプラスチックセミナーの企画を調整していきたい。

#### 【阿部委員】

商工会議所連合会としては、例年同様、使用済用紙や古紙等を分別しリサイクル活動に取り組んだ。また、女性会を中心に3010運動、また場合によっては3010にとらわれず1515運動などとしながら食品ロスの削減に取り組んだ。その他、県内7商工会議所それぞれの会館にごみ削減キャンペーン等のポスターを掲示しごみ削減運動に取り組んでいる。31年度も同様の取組みを継続していく。

#### 【川口委員】

山形県電機商業組合として、家電リサイクルについては大分前から取り組んできて県民の方の認知度も上がり概ね順調にリサイクルされてきているかと思うが、小型家電リサイクルについては、お客様からどこに持って行けば良いのかなどの問い合わせも多く、まだあまり県民の方の理解が進んでいないと感じている。

また、組合としてはペーパーレスに積極的に取り組んでおり、ほぼ50代以下の店主等に対しては電子化が浸透しているが、高齢の電気店主などの場合はネットでの連絡が難しい場合もある。

3010運動にも以前から取り組んでいるが、今年度開催したある懇親会で、閉宴後、参加者50名中10名ぐらいを集め、同じ会場で2次会を行い食べ残しゼロにつなげるといった取組みも行った。その他、やまがた環境展に省エネ冷蔵庫を出展し、10年前の冷蔵庫との比較を行い電気代が約半分以下まで減っていることをPRした。

31年度も同様の取組みを継続していく。

#### 【澁谷委員（代理：佐原専務理事）】

山形県建設業協会としては、1つには社会貢献事業として8支部青年部による道路・河川の美化活動を実施している。支部としての他にも各企業としても取り組んでいる。

2つめとして、会員企業や支部への案内や通知は専用のネットワークを用い、ほぼ全て電子メールで行いペーパーレス化に努めている。

3つには、工事の受発注に際し、専用の情報共有システムを用い、書類の電子化に努めている。その他、美しい山形・最上川フォーラムの会員として年会費を納め、行政・市民による河川の美化活動を支援している。31年度も同様の取組みを継続していく。

#### 【庄司委員】

山形県再生資源商工組合として、1つには、定時総会時の会食の事前オーダーを行うことにより食べ残しが無くなった。以前は松花弁当などを配膳し食べ残しが多かった。所属する事業所単位で行う宴会時の食べきり運動も呼びかけている。

2つ目として、会議資料の簡略化や、プロジェクターが使用できる会議室の利用などによりコピー用紙の使用削減に努めた。また、組合員に古紙回収事業者がいることもあり、不必要なシュレッダーをできるだけ行わないようにして再生紙に回すようにしている。

31年度も同様の取組みを更に強化していくが、組合員だけでなく、取引先への用紙分別指導などに取り組まなければこれ以上の削減にはつながらないので話もあり、組合員だけでなくその先へ活動を広げていけるよう呼びかけていきたい。

また、組合として取組めることは限りがあり、何か新しいことに取り組んでいかなければ産業廃棄物は減っていかないと思っている。中国等の輸入禁止措置に伴い、夏ごろから小型家電に属さない雑品やビニールなど産廃の排出が増えて処分が滞っているので、これ以上増やさないような取組みを行ってほしいと思っている。

#### 【丹野委員（代理：細川事務局）】

山形県環境整備事業協同組合としては、次の3つの取組みを行った。1つ目は、廃棄物の適正な処理による環境負荷の低減、廃棄物の適正処理の推進、廃棄物の不法投棄の防止。2つ目は、宴会時の食べ切り運動、3010運動の呼びかけ、3つ目、裏紙の利用とFAX用紙の出力削減に取り組んできた。

31年度は30年度と同様の活動に取り組む、その他に、災害時体制の構築として、山形県との「災害一般廃棄物の収集運搬に係る協定書」に基づき、被災市町村及び関係団体と連携し、災害廃棄物処理体制を構築することを活動目標とする。

#### 【西方委員】

日本青年会議所山形ブロック協議会としては、毎年継続して実施していることであ

るが会議の際にパソコンを使い紙資料を使わずペーパーレス化に努めている。アンケート実施の際も近年は紙資料を使わずウェブアンケートを実施している。

また、先ほど来3010運動への取組みが報告されているが、日本青年会議所としても2019年の方針としてSDG'sに取り組むこととしており、本県としてもその一環として1月1日から2010運動をスタートさせ、昨年度までは乾杯後すぐに名刺交換で席を離れる場面が目立ったが、今年は食べ残しゼロといった状況である。県内17青年会議所それぞれにも普及活動と呼び掛けている。

2019年度も同様の取組みを継続し、飲食店にも迷惑をかけないように食べ残しゼロに取り組んでいく。当会議はSDG'sの推進に関連する部分も多いので、今後より掘り下げて勉強しごみゼロやまがたに貢献してまいりたい。

#### 【長谷川委員】

山形県食品衛生協会は、県内6保健所にリンクし8つの地区の食品衛生協会からなる組織。任意加入の団体であるが県内で営業許可証を必要とする業が約1万8千あるうち1万6千人が加入しており、全国的に見ても相当高い組織率となっている。

そして、8地区の協会で、更新、新規の際は協会員自らで実地検分、指導を行うなど、ち密な活動を行っている。

協会として、今一番の課題は1年半後に食品衛生法が改正され猶予期間が切れ、ハサップの基準に沿った施設でないと営業を継続していけなくなるということ。そのため、各種講習会や保健所単位での勉強会が非常に多く開催され、相当の率で、皆真剣に取り組んでいる。

1万6千人の協会員のほとんどが「もったいない山形協力店」に該当する可能性が高いかと思われるが、食品衛生協会への加入に際しても、加入するメリットは何かといった権利の主張が多く、義務を果たして皆で山形の食の安全安心を守るための組織であるとしか説明できないのが現状である。ただし、今後、ハサップに伴う講習会を受講しないと営業を継続していけないといったようなこともあり、3010運動や、もったいない山形協力店、ごみ削減などについても啓蒙していかなければならないと思っており、組織力をふるに活かして協力してまいりたい。

#### 【保科委員（代理：有海運営委員）】

山形県JA女性組織協議会としては、食品ロス削減のためにフードドライブに取り組み自宅で余っている食品等の提供に協力した。また、会議や研修会の際はマイ箸運動に取り組んだ。31年度も引き続きこの2つの運動に取り組むほか、新たに「88運動」に取り組み会員に広げていく予定。これは、毎日、夜8時から8分間各家庭で電気の使用を控えるという省エネの取組みで、電気をパチパチと消す音にかけているが、楽しく生活の中に溶け込ませていければと考えている。

#### 【松村委員（代理：大江連携支援部長）】

山形県工業会は、県内の製造業、地場産業、立地企業など会員数110社ほどからなる組織。ごみ削減に関しては、それぞれの企業毎に個別の取組みを行っているが、本日は事務局を預かる山形県中小企業団体中央会としての取組みを報告する。

まずは、印刷済用紙の裏面再利用や古紙の分別回収の他、瓶や缶、ペットボトルや

金属などの分別にも取り組んでいる。また、食品ロスの削減に関しては、会員企業間の宴会の機会が多くあるが、事務局としてお酌などに回る時間帯が長くなりテーブルの料理が余ってしまいがちのため、工夫により例えば事務局のテーブルの料理の量を他のテーブルの7掛けにしたり、中締め後、同会場で事務局だけで反省会を行い食べ残しを少なくするなど、食品ロス削減に向けた取組みを行っている。

31年度もこのような取組を中心に、できることからやっていこうと思っている。

- ・ 欠席委員の活動状況について

【事務局】（資料4により説明）

- ・ 平成31年度ごみゼロやまがた県民運動 産業部会展開方針について

【事務局】（資料5により説明、併せて食品ロス削減に向けた取組みの実施について資料6により説明）

#### 【黒澤委員（部会長）】

平成31年度ごみゼロやまがた県民運動産業部会展開方針として、食品ロスの削減（食べきり運動）、プラスチックごみ削減運動、環境にやさしい製品の優先購入運動の3つを展開方針案として総会に提出することでいかがか。

#### 【各委員】

異議なし

#### 【事務局】

食品ロス削減事業について、補足して説明させていただく。

これまで、シンポジウムの開催やチラシの作成配布などによりこのような取組みを実施してきたが、ややもすると例えばシンポジウムに参加された50名なり100名なりの方々には理解いただいても、それ以外の方には理解の広がりが無かったのではないかといった問題意識を持っている。

ごみについては、県民1人1人、企業1社1社あるいは社員1人1人から意識を持っていただかないとなかなか削減が進まないと思っており、いかにして個々に届けるかが課題であり、また難しい問題だと認識している。

そのような観点から、今回シンポジウムの開催や共同宣言の採択といった事業を企画したが、具体的には、それぞれの団体や構成メンバーから食品ロスの削減に向けて各々こういった取組みを行いますといった旗印を掲げていただく、決意をしていただくといったことを狙いに事業を実施していきたいと思っている。

その際に、それぞれの組織の、情報を伝える縦のラインで構成員に周知を図っていただきたいと思っており、県としても各団体の取組みが孤立するようなことの無いよう、ポスターやリーフレットを作成配布したり、新聞広告などを出しながら、県全体として機運を盛り上げ、また、各団体の取組内容を県のホームページで周知するなど

して情報の共有化を図るなどしながら更に取り組みを広げていきたいと思っている。

今後、場合によっては各団体様に御負担をおかけすることもあるかもしれないが、各団体ごとに組織の状況は異なると思うので、どこまでやれるか具体的な内容を詰めて、そして各団体ごとの御事情をお伺いしながら事業を進めてまいりたいので、よろしく御協力願いたい。

(3) その他

【事務局】

平成31年度「ごみゼロやまがた県民運動」の活動内容について資料7により説明

4 その他

【事務局】今後のスケジュールについて説明。(5月下旬頃に総会を開催予定)

5 閉会